

おかえり

清流日本一の山里
匹見町へ行こう

コンビニはない。
JRは走っていない。
信号は町にただ1つ。

山間の小さな町、ひきみ。
ここには、現代社会で失われてしまった
人間的な暮らしが今も残っている。

写真：立岩

はじめの一步を応援！ 定住アドバイザー



勝部真 (かつべまこと) さん

■広島県広島市から1ターン
■島根県松江市出身
■定住開始 平成5年2月
■現住所 匹見町匹見イ66714
■家族 6人(両親、息子、娘2人)



山室弥生 (やまむろやよい) さん

■大阪府豊中市から1ターン
■大府出身
■定住開始 平成15年5月
■現住所 匹見町澄川
■家族 2人(夫)



高田純子 (たかたじゅんこ) さん

■広島県広島市から1ターン
■広島県出身
■定住開始 平成7年7月
■現住所 匹見町道川口307
■家族 4人(夫、娘2人)

※定住アドバイザーとは：匹見町に1ターンされた方が、自らの定住体験や地域の習慣、心構えなどについて助言を行う制度です。アドバイザー相談をご希望の方は、まずは匹見総合支所地域振興課(電話0856・56・0301)までご連絡ください。※相談受付は平成二十二年三月三十一日まで。

【公営住宅情報】

■人口定住住宅					H21.7.1現在	
名称	所在地	構造	戸数(空戸数)	建築年等	家賃	
山根下団地1	匹見イ663-2	木造2階建	4	H8建築	(単)15,000 (世)25,000	
山根下団地2	匹見イ716	木造2階1戸建	1	H11購入	15,000	
半田団地	匹見イ326-1	簡易耐火1戸建	3	H4購入	5,000	
諏訪団地	匹見イ1178-2	鉄筋2階建	2(2)	H14改築	(単)20,000 (世)25,000	
道川団地	道川イ39	簡易耐火平屋建	2	H18改築	15,000	
荒木団地	紙祖イ38-3	木造平屋1戸建	1	S58建築	15,000	
澄川団地	澄川イ327	木造平屋1戸建	2	H5.10建築	15,000	
■特定公共賃貸住宅						
諏訪住宅	匹見イ1237	木造平屋建	3(2)	H8.9建築	45,000	
澄川住宅	澄川イ337-1	木造平屋建	1(1)	H15建築	45,000	
■市営住宅						
諏訪住宅	匹見イ1237外	簡易耐火平屋建	10(3)	S45建築	収入による	
諏訪住宅	匹見イ1237外	木造平屋建	15(1)	S53.54.H8.9	収入による	
江田住宅	匹見イ189-2外	簡易耐火平屋建	3(1)	S49建築	収入による	
江田住宅	匹見イ191	木造平屋建	4	S56.57建築	収入による	
荒木住宅	紙祖イ64	簡易耐火平屋建	7(2)	S49建築	収入による	
澄川住宅	澄川イ290外	簡易耐火平屋建	5(1)	S46建築	収入による	
澄川住宅	澄川イ337-1	木造平屋建	2	H15建築	収入による	
道川住宅	道川イ29-1	木造平屋建	2	H14建築	収入による	
■若者定住住宅						
コーポおかもと	紙祖イ672-1	鉄骨造2階1戸建	4(1)	H7建築	25,000	
コーポのいれ	匹見イ1226-1	木造2階1戸建	4(2)	H13建築	25,000	

◎定住・UIターンに関する問い合わせ先
 益田市匹見総合支所 〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260 電話(代表)0856-56-0300 FAX0856-56-0362
 HP <http://www.town.hikimi.shimane.jp/> ◆わさび就農…経済課 ◆空き家バンク制度…地域振興課 ◆公営住宅…建設課

◎ひきみ田舎体験に関する問い合わせ先
 ひきみ田舎体験推進協議会事務局 〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260 益田市匹見総合支所地域振興課内
 電話0856-56-0301 FAX0856-56-0362 HP <http://www.town.hikimi.shimane.jp/inakataiken/>

匹見町でがんばっている地域住民の力を結集し、「匹見の魅力」をもっと多くの人に伝え、地域を元気にしていこうと、民泊や地域におこし・加工グループなど個別に活動する団体が連携し、「ひきみ田舎体験推進協議会」が誕生しました。

本会の最大かつ最終目標は「定住促進」であり、「田舎体験イベント」の実施と「ボランティア制度」の運用を活動の2本柱に据え、来訪者に匹見の魅力を



体感いただき、短期滞在から長期滞在、そして将来的に定住につながるべく目指しています。

【田舎体験イベントの実施】
 四季折々に匹見ならではの田舎体験イベントを実施することで田舎志向の高まる都市住民に匹見の魅力をアピールし、匹見ファンを増やしていきます。また各会員の特徴を活かした田舎体験メニューを企画・立案し、豊かな資源を活用した田舎体験ツアーを実施しています。

【ボランティア制度の運用】
 少子高齢化が進む匹見町では、集落内の草刈りや清掃、雪かきなど、共同作業が年々困難にな

ひきみ暮らしを体験してみませんか！

つてきています。そこで町外の方々の力を借りし、集落機能の維持を図るため、匹見総合支所と本会が中心となって「ボランティア制度」を創設しました。本会では、町内のボランティア要員と町外住民の受け入れ調整や情報発信などを行っています。ボランティア作業に従事していただいたボランティア会員のうち希望者に対して、地理的条件などを考慮し、実施した作業時

間に応じて滞在費(食事や宿泊)の一部助成を行っています。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

または、【ひきみ田舎体験】で検索ください。

空き家を有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、匹見総合支所は「空き家バンク制度」を創設しました。

この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、同支所が相談窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。平成二十一年七月現在、空き家バンク登録件数は八棟(うち六棟成立)で、匹見での田舎暮らしを強く希望する方々(空き家利用希望登録者数十一人)の要望に応えられない状況です。

皆様の中で空き家を「貸し住宅にしてみたい」「売却してみたい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、同支所地域振興課(電話0856・56・0301)までご連絡ください。

空き家を探しています



■ 宮本さん一家

益田市の東の玄関口、匹見町道川地区。国道191号沿いに位置する元組集落は23人が暮らし、12人が65歳以上の高齢者、約3割が独居世帯だ。

その元組集落に今年5月、広島から4人家族が引っ越してきた。

宮本剛さん（33歳）、紀沙さん（28歳）、和芽ちゃん（4歳）、詩子ちゃん（2歳）。

久しぶりに子どもたちの声が聞こえるとあつて集落の人たちは「賑やかで嬉しい」「元気になる」と大喜びだ。都会の生活に見切りをつけ、周囲からの猛反対もはねのけて、山深い

土を見たことが、ない

剛さん、紀沙さんは共に鍼灸師。広島市中心部で、カープ選手や競輪選手なども訪れる鍼灸院を経営していた。

そんな2人が本気で都会の生活を解消しようと考えたのは、和芽ちゃんが誕生してからのことだ。

「町中で育ちよると、娘が極端にアリの怖がりしたりしたんです。外を歩けばアスファルトとコンクリートだらけ。町の中には土がない。土もアリも見ることが

ないんです」と剛さん。「郊外に引っ越そうか」。どちらからともなく、そんな言葉がついてきた。

引っ越し先を話し合った際に「匹見じゃないとダメ」。そう言ったのは紀沙さんだった。実は紀沙さん、10代の頃、匹見の自然が大好きなお母さんに連れられて何度も裏匹見峡にキャンプに訪れていたのだ。

清涼な水、美しい山々の姿。ジが書かれた色紙が手渡されたときには、「感動しました」。「娘を連れて近所を歩いていると地元の人が車内からでも挨拶してくれそうですし、ご飯をご馳走になったこともあります」。

育ててくれる環境がある。匹見には、『子は地域の宝』という精神が今も息づいている。

「匹見へ遊びに来ると、娘たちは元気になるし、楽しそうだったんです」。

平成20年暮れ、念願の農地付きの古民家が元組集落に見つかった。広島行きのバス停も近く、好条件。

引越しの準備は着々と進んでいった。

温かい地域の人たち

今年に入り、新居へ来るたび、誰の《仕業》か分からないが、家の周りが草刈りされ、どんどんきれいになっていく。元組集落の人たちから歓迎のメッセー

「収入面は確かに不安もありました。けれど、僕たちのような生き方があってもいいのでは。友達に『ここへ住め！』って薦めています」(笑)。

剛さんは自宅で鍼灸院を始めた。広島からも患者さんや知人がちよくちよく来てくれる。集落にも《常連さん》ができた。元組集会所で開かれる健康教室に月1回、講師に呼ばれることにもなった。

「収入面は確かに不安もありました。けれど、僕たちのような生き方があってもいいのでは。友達に『ここへ住め！』って薦めています」(笑)。

紀沙さんも魅了され、友達だけで匹見へ足を運ぶようになった。

紀沙さんの薦めで匹見を訪れた剛さん。匹見の自然を見た瞬間、『おつ、住むか！』と即決したという。

だが、その後が大変だった。

反対にあつても

2人の考えに親族、知人、友人は猛反対。「子どもの教育はど

好きな木工の世界に飛び込んだ

益田市では、匹見町外から移住し、農林業の研修を受け、新たに就業しようとする人に対して【益田市匹見地域農林業担い手確保育成事業補助金（最大1年間、毎月上限10万円）】を交付し、就業と定住を支援している。

紀沙さんはこの事業を活用し、今年6月から「ひきみ森の器工芸組合」で代表を務める大谷照行さん（49歳）の指導の下、電動ロクロを使い、加工の技術を磨いている。

「お客さんに作品を買っていただけレベルまで育てたい」と大谷さん。

以前から、モノ作りに興味があった紀沙さん。「お土産コーナーで《森の器》を見るたび、自分で作品が作りたいと思っていた」という。

紀沙さんは「若いお母さんや赤ちゃん向けの木工品をデザインから携わり制作したい」と意



■ 元組集落の人たちからもらった色紙



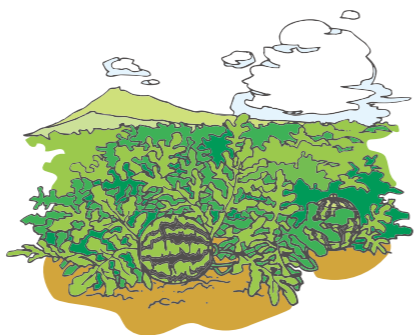
■ 元組集落の健康教室で施術する剛さん

うするんだとか、収入面は大丈夫かとか、しまいには、大変だからあんたらには無理って言われちゃつて：」（紀沙さん）。剛さんが続ける。「僕の学生時代を振り返ってみると、生徒は多くても親友は少なかつたし、勉強したければどうやってでもできる。だから生徒数や選択肢の有無は関係ない」と。

それ以上に、安全な環境で子育てがしたい！という思いが強かった。田舎だと選択肢は少ないかもしれない。けれど、田舎だからこそ、子どもたちを守り

欲満々。

近い将来、紀沙さんの作品と出合える日が来るかもしれない。



■ 表匹見峡



■ 大谷照行さんの指導の下、木工の研修に励む紀沙さん

